

年)皇子圖類之を塔爾巴哈臺と改む。蓋し蒙古語に水獺多しとの義なりと。憲宗の二年(千二百五)默呼の部下に屬し、明代(千四百)準噶爾の游牧地と成ると。

邊城春不度 三月雪封山

仰視北辰近 又聞人語蠻

今や北は旅程を塔爾巴哈臺に留め、更に南轉して伊犁に向はんとす。是に於てか再び西湖まで逆進せざるべからず。即ち四月二十一日塔城を發し、當日は河上に翌日は老風口に、二十三日托里、二十四日坤都倫、二十五日什納札、二十六日小草湖、二十七日頭臺、二十八日西湖に着し、翌日休養、三十日愈々伊犁に向ふ。

第五節 西湖より西して伊犁に入る

一、夏の如く冬の如し

四月三十日午前六時三十分西湖を發し、普爾塔齊^{ブルタチ}を経て、行程約十一里、四棵樹^{スィコラシユ}に達す。道路砂質良好なるも、緩なる傾斜を以て昇降するが故に、處々凹地多く、且つ天山よりの散水は、往々積原を作れり。四棵樹は人家約三十、其東南數町の地に、吐